

# 2018年度 「第11回 言語聴覚の日」イベント報告

## 初の県内東西開催！ 体験談を交えた分かりやすい講義が好評

兵庫  
HYOGO

### ● 兵庫県言語聴覚士会

公益活動部 安居和輝、岡本拓也

このたび、2018年10月14日・11月23日の両日、「平成30年度ひょうご言語聴覚の日イベント 失語症啓発フォーラム 地域で暮らす失語症者のいきいき生きる道標～当事者セラピストの思い～」を開催いたしました。兵庫県は東西南北に広がっており、今回は初めて10月に神戸、11月に姫路と東西での開催を実施しました。当日は、神戸は112名、姫路は149名と多くの方にお集まりいただき、盛況のうちに終わりました。参加者の中には当事者・家族、ケアマネ、介護福祉士等様々な方にご参加いただきました。

内容は2部構成で、前半は長野県で活動する劇団ぐるっと一座の活動取材したドキュメンタリー「言葉のきずな」を上映しました。劇を通して互いを認め合い、そして思いを共有する中で少しずつ変化していく当事者や家族の姿は、参加者の心にととも響く内容でした。後半は、神戸は山梨県在宅言語聴覚士の平澤哲哉先生、姫路は三鷹高次脳機能障害研究所所長の関啓子先生にご講演いただきました。平澤先生は、学生の頃に交



関啓子先生

通事故で失語症になられたそうです。周囲の友人からはなかなか理解が得られず、気分が落ち込み、引きこもりそうになっていた頃もあったそうです。言語聴覚士になられてからは、ご自身の経験から障害を負った人たちに寄り添うようなりハビリを

続けているとお話がありました。関先生は数年前に脳梗塞になられ、その際の心の動きや周囲の人たちの言動、その後のリハビリの様子などを丁寧に分かり易い言葉とスライドで伝えてくださいました。両先生とも当事者としての経験があり、当事者になった時の心情や周囲との関係などをとても熱心にお話ししてください、参加者からも大変好評でした。

現在、兵庫県下には失語症友の会は14ヵ所あります。しかし、それらは東側に集中しており西の方にはありません。今回のイベントが失語症友の会活動の拡がりに繋がる第一歩となるよう、今後も県士会として地域支援を続けてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、今回のイベントでは共催いただき誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼を申し上げます。



平澤哲哉先生



熱気にあふれる  
会場



神戸会場にて



姫路会場にて